The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	メタフュシカ 第37号 彙報
Author(s)	
Citation	メタフュシカ. 2006, 37, p. 129-131
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/8951
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

【彙報】

○　哲学哲学史・現代思想文化学

現在、学部の哲学・思想文化学専修には、2 年生 8 名、3 年生 7 名、4 年生 9 名が、大学院の哲学哲学史専門分野には、博士前期課程学生 5 名、後期課程学生 6 名が、大学院の現代思想文化学専門分野には、博士前期課程学生 5 名、後期課程学生 7 名、研究生 1 名が在籍しています。各教員は、臨床哲学所属の教員と連携しつつ、教育・研究指導に当たっています。

本年度の講義・演習は、「17 世紀近世哲学における様相の問題 III, IV」「スピノザ『エチカ』を読む II」「ベルクソンを読む」「フランス近･現代哲学史概説」（上野教授）、「実践的知識･共有知･相互知識」「ドイツ観念論における自己意識論と自由論の展開」「問答論理学研究 1, 2」（入江教授）、「J・ハーバーマスの思想 I」「カントの平和論をめぐる諸問題」「カント『純粋理性批判』を読む V, VI」「ドイツ哲学基本文献講読」（舟場助教授）、「現代哲学史概説」「英米哲学基本文献読解」「家族関係から見るショーペンハウアー哲学 (4) (5)」「ニーチェ『道徳の系譜学』研究 (1) (2)」（須藤教授）、「教育の現代思想史」「フランス哲学基本文献読解」（望月教授）という題目で行なわれています。また、その他に、修士論文・博士論文の作成演習が定期的に行なわれ、活発な研究・討論が行なわれています。

また、非常勤講師としては、加藤雅人先生（関西大学）に「アクィナスにおける存在論と意味論」、永井均先生（千葉大学）に「私・今・クオリア」という題目で講義をお願いしています。

哲学を音声で伝える試みとして、ウェブ・ラジオ局：ラジオ・メタフュシカを開局しています。聴取は http://radio.metaphusika.net/ からです。また、海外に研究果を発表するために、欧文雑誌 “Philosophia OSAKA” を発行しています。これは、本誌『メタフュシカ』とあわせて、研究室の HP（http://www.let.osaka-u.ac.jp/philosophy/）の「出版物」の頁から閲覧することができます。

哲学哲学史・現代思想文化学の研究会として、handai metaphysica を開催しています。2006 年 3 月 18 日には、須藤教授・中橋助手・百崎院生の各論文の合評会が行なわれました。同年 8 月 9 日の研究例会では永井均教授（千葉大学）に「意識の神秘は存在するか」という題目で発表をしていただきました。特別講演会としては、同年 3 月 25 日に M・クヴァンテ教授（ドイツ・ケルン大学）に「ヘーゲルの承認概念の体系的意味」という題目で、同年 11 月 21 日に G・シェーンリッヒ教授（ドイツ・ドレスデン工科大学）に「規則遵守の制度化？――モデルとしてのカントの法状態」という題目で講演していただきました。いずれにおいても、活発な質疑応答がなされました。

日独哲学シンポジウム大阪プログラム（2006 年 3 月 28 － 29 日）において入谷秀一修了生が「非同一的なものの承認――アドルノからホネットへ」という題目で提題者として発表しました。本シンポジウムには、他に、入江教授、須藤教授がコメンテイターとして、舟場助教授が司会として参加しました。

日本哲学会第 65 回大会（2006 年 5 月 20 － 21 日）の共同討議「哲学史を読み直す――スピノザ」

において上野教授が提題者として発表しました。同大会においては、平光哲朗院生が「創造の持続――ベルクソンの創造論について」という題目で、津崎良典院生が「デカルト『方法序説』第二部における方法と徳の問題」という題目で研究発表を行ないました。

国際フィヒテ協会大会（2006 年 10 月 3 日 − 7 日、Frankesche Stiftung（Halle））において、入江教授が „Eine Aporie der Fichteschen Wissenschaftslehre — Unbegreifbarkeit der intellektuellen Anschauung —“ という題目で研究発表を行ないました。なお、入江教授は、日本フィヒテ協会の会長選挙(同年 12 月)で再任されました。任期は､2007 年 4 月から 2010 年 3 月までとなります。

関西倫理学会第 59 回大会（2006 年 11 月 4 − 5 日）のシンポジウム「サンクションの可能性と限界」において舟場助教授が提題者として発表しました。同大会においては、西田充穂院生が「レヴィナスにおける受動性――『存在の彼方へ』における三つの文脈から――」という題目で、前田直哉修了生が「超越論的現象学における『世代性』概念の再検討」という題目で研究発表を行ないました。また、同会の第 1 回優秀論文賞を入谷秀一修了生が受賞しました。

平成 17 年度名古屋大学総長裁量経費プロジェクト・文学研究科プロジェクト「言語表象と脳機能に基づく環境哲学の拠点形成」のシンポジウム「『生きられる空間』の生成と変容――システムとその外部――」（2006 年 2 月 17 日）において中橋助手が「環境と倫理――世界内存在」という題目で発表しました。

2005 年 3 月以来、ドイツ・パッサウ大学、アメリカ・ピッツバーグ大学で在外研究を行なっていた入江教授が同年 12 月に帰国しました。また、昨年に引き続き、冨岡基子院生がフランス･社会高等研究院（EHESS）に、津崎良典院生がフランス･パリ第一大学に留学しています。他に、梶岡裕加学部生が 2006 年 4 月からドイツ・ミュンヘン大学に、大場一雅院生が同年 9 月からフランス・パリ第一大学に、和泉悠卒業生が同年 8 月からアメリカ・メリーランド大学に留学しています。中村修一院生が留学先のドイツ・ミュンヘン大学から帰国しました。

昨年の『スピノザの世界――神あるいは自然』（講談社現代新書）に引き続き、『スピノザ――「無神論者」は宗教を肯定できるか』（NHK 出版）を上野教授が刊行しました。『ドイツ観念論を学ぶ人のために』（世界思想社）を入江教授が刊行しました（共著)。

舟場助教授が、平成 17 年度前期大阪大学共通教育賞を受賞しました。

大石敏広修了生が 2006 年 4 月 1 日から沖縄工業高等専門学校に勤務しています。

長年にわたり、研究室のみならず学会においても指導的な役割を果たされた溝口宏平教授が 2006 年 6 月 22 日に膵臓癌のため他界されました。また、西松豊起修了生が同年 9 月 23 日に病気のため、博士前期課程の大谷大輔院生が同年 11 月 22 日に事故のため他界されました。謹んで哀悼の意を表します。（中橋）

○　臨床哲学

学部（倫理学）には 2 年生 10 名､3 年生 6 名､4 年生 10 名が在籍している。大学院（臨床哲学）には前期課程 6 名、後期課程 3 名が在籍している。

非常勤講師として小林傳司（大阪大学コミュニケーションデザイン・センター）、霜田求（大阪大学医学系研究科）、寺田俊郎（明治学院大学）、稲葉一人（科学技術文明研究所）の各先生方にご講義頂いた。

本年度の講義・演習は、「臨床哲学ネットワーキング (3) (4)」「臨床哲学研究 (5) (6)」「臨床哲学概論」「倫理学概説」（中岡, 本間、紀平）、「哲学のフィールドワーク (1) (2) ―イメージを読む」「倫理学文献読解演習 (1)」「社会の中の人文学*」（鷲田）、「ひとは何を欲求するかV（生命の臨床）」（中岡）、「哲学的コミュニケーションの探求と実践」「性･身体･社会（身体の臨床）」（本間）、「環境倫理の諸思想（環境の臨床）」、持続可能な開発の倫理 (2)（環境の臨床）」「現象学と他者の問題―フッサール『デカルト的省察』を読む 1、2」（紀平）、「遺伝カウンセリングの倫理問題（生命の臨床）」（霜田）、「社会の中の科学技術」（小林）、「英語による新しい三基本学芸―対話･弁論･作文」（寺田）、「科学技術と倫理 III、IV *」（稲葉他）。（*は 21 世紀 COE 科目）

機関誌『臨床哲学』の第 6 号を刊行（予定）。

以下の各氏が博士号を取得した。

- Lyudmila Slavianska "The Impossibility of Reaching a Social and Moral Consensus on Euthanasia and Physician-Assisted Suicide and the Search for Alternatives"
- 高橋綾「こども学から＜こどもの哲学＞へ　メルロ＝ポンティ、デューイとともに」
- 玉地雅浩「転調する身体―中枢神経系の生涯を持った人に対する理学療法を考え直す」
- 森芳周「カント批判哲学におけるカテゴリー論の研究」
- 渡辺美千代「身体とケアの看護現象―ケアの＜あいだ＞に見えること・見えないこと」

七月に電子情報通信学会コミュニケーション基礎研究会にて本間助教授と高橋綾（OD）が哲学カフェについて発表。

十一月に対話シンポジウムにて本間、高橋、松川絵里（院生）、樫本直樹（院生）が共同発表。

十一月に関西倫理学会にて、岸田智（OD）と紀平講師が口頭発表を行った。

出版活動

鷲田清一教授

- 『「待つ」ということ』（角川学芸出版、二〇〇六年九月）
- 『感覚の幽い風景』（紀伊國屋書店、二〇〇六年六月）
- 『てつがくを着て､まちを歩こう―ファッション考現学（文庫）』（筑摩書房､二〇〇六年六月）

紀平知樹講師

- 『西洋哲学入門― 6 つの主題』（梓出版、二〇〇六年五月）
- 『ポストモダン時代の倫理』（ナカニシヤ出版、二〇〇七年一月）

（紀平）